

武井 誠 活動報告

武井 誠 を励ます会

〒350-0253 埼玉県坂戸市北大塚 40
TEL 049-289-2527 ケイタイ 090-9854-5175
<http://www.takei-makoto.org/>
E-mail takei@sakado-gr.org

27号

- ◆疑惑隠しの自己都合解散
- ◆無料法律・年金・市民生活相談案内
- ◆坂戸市議会 9月定例会報告
- ◆工場排水 サテライト問題 決着!
- ◆安倍改憲反対 「活憲」運動を進めよう

疑惑隠しの自己都合解散

灯る戦の火に油をそそぐな

「ミサイル来たぞと電車を止めて 動く原発そのまんま」
唯一の戦争被爆国民である私たちがすべきことは「核と人類は共存できない」を合言葉に、脱原発を目指し、いかなる国の核実験にも反対し、核兵器禁止条約を採択した諸国民と共に、米朝両国の間に立って戦争回避のためにあらゆる外交的手段を尽くすことだと思います。トランプ政権への無条件追随、原発輸出などもってのほかです。

国難を作っているのは首相自身です。いたずらにJアラートなどで国民の危機感をあおり、本当の「危機」を隠ぺいし、一切の説明を拒み続けた果ての臨時国会冒頭解散。なにも仕事をしなかった「仕事人内閣」。これは疑惑隠しの「自己都合解散」にほかなりません。

私たちはアベ政治を許さない

衆議院解散総選挙自体は、望むところです。

『戦争法』『共謀罪法』の強行採決「防衛省の情報隠し」「森友・加計学園問題」「教育勅語を認める閣議決定」「沖縄基地建設強行」「原発事故責任回避、避難者切り捨て」「改憲」「アベノミクスの失敗」。これらすべてをうやむやにしたまま、暴走しようとする安倍政権に対してブレーキをかけるために、地域から声をあげていきましょう。

私たちは「立憲野党共闘」を求める市民団体みなさんの声を謙虚に受け止めつつ、社民党の議席獲得を目指して、全力を尽くします。

1 毛呂山の工場排水、公共下水道に接続!

2 競輪場外車券売り場建設計画 撤回へ!

(3面をご覧ください)



9月18日「さようなら戦争 さようなら原発 全国集会」(代々木公園にて)

無料相談会継続中

日常生活での悩みごとに、弁護士、社労士、税理士、心理カウンセラーが無料で相談に応じる会を実施し、大変好評をいただいています。13時～武井誠との市民生活相談、14時～年金相談、15時～法律相談、相談時間は30分です。税務、家庭相談は随時となります(要予約)。

次回は10月28日(土)

会場は坂戸市文化施設オルモです

緊急の場合には、有料となりますが信頼できる弁護士事務所、社労士、税理士事務所を紹介します。詳しくは、武井誠ホームページ、又は武井まで直接お問い合わせください。(ケイタイ 090-9854-5175)

※ホームページを毎日更新し、武井誠の活動をお知らせしています。「武井誠」と入力、**検索**をクリック。ツイッター、フェイスブックからも発信しています。無料メールマガジンも通算101号になりました。

9月議会報告 老人福祉センターの有料化に反対

坂戸市議会9月定例会は9月20日に閉会しました。武井誠は2016年度の決算認定等には賛成しましたが、老人福祉センターの使用料を有料とする条例案には反対しました。そのことを含め、武井誠の一般質問などについて報告をします。

9月議会を振り返って

坂戸市の2016年度一般会計決算は歳入314億、歳出304.2億。基金や繰越金分を除いた実質収支は9.4億の黒字、基金残高は43.7億となりました。経常収支比率は91.8%。

坂戸市は、超高齢社会に突入しています。税収減、社会保障費の大幅増加が予想されま。市は、行財政改革で歳入・歳出を見直しながら、定住政策推進、企業誘致に取り組んでいくとのこと、来年度の予算編成に向けて様々な角度からの議論が求められています。

国民健康保険制度の広域化

国民健康保険の危機がささやかれてからすでに10年以上が経過、「広域化によるスケールメリットにより財政が安定するのでは」と言われ、あわただしく2018年度から制度の都道府県単位化が始まろうとしています。

国が都道府県を介して市町村を目標管理し、締めつけようとする改革ではないのかという懸念、何よりも心配なのは国保税が値上げになるのではないかということです。

最も議論になったのは「法定外繰り入れ」とよばれる市の一般会計からの繰り入れの是非でした。この問題を含む請願も提出されていました。武井誠は「低所得者、高齢者が多いという構造的な問題、他の医療保険加入者も将来、国保に移行することも多い」等の理由で、市民の生存権保障の問題としてこの繰り入れを認めるべきであると主張しましたが、賛成少数で請願は不採択となりました。

地域コミュニティ活性化支援を

区・自治会加入率が約71%前後であるという状況です。活動の課題と対策、地域コミュニティ活性化への支援を質問しました。

特に、地域支えあい協議会への支援について、社会福祉協議会を介して特定の1団体だけに補助を出しているのではないかと質問しました。答弁では、社会福祉協議会の評議

員会での説明は遺憾であるとしたうえで、補助金は交付要綱に基づいて交付され、現在、存在する協議会が1団体のみであるためである。今後の支援・補助のあり方について検討し、方針を決めていくとの答弁がありました。

地域福祉の制度設計については、柔軟な考え方で検討していくとのこと、具体的提案をしていきたいと思ひます。

平和首長会議の活動への参加

「都市が国境を越えて連帯し、純粋に平和を願う思いと共に核兵器廃絶への道を切り開こうとするものである。」平和首長会議に加わる意義を問う武井誠の質問に対するこの答弁を高く評価するものです。市議会へ提出された「核兵器禁止条約への参加を求める意見書提出を求める要請書」はとり上げられませんでした。が坂戸市は条約推進の署名も行っています。

また、平和首長会議の事業でもある被爆アオギリ2世の植樹は、市民の取り組みを引き継ぎ、市の事業として今後も小学校に順次植樹していく、説明標識を設置・管理し、平和に関する教育を推進していくとの答弁がありました。

「城山荘」「ことぶき荘」有料化 60歳以上の市民使用料100円に

「市民コメントにおいて多くの反対意見が寄せられ、その中には切実な訴えも多くありました。有料化による実質収入額は190万円前後であり、施設費の4%程度です。高齢者の健康長寿、引きこもり防止対策として、無料で利用できる効果は、この収入増よりも大きく上回るものと考えます。また、一部の利用者のマナーに問題があるとのこと。しかし、この問題は無料であるかどうかと関係づけるのではなく、別の方策によって解決すべきものです。」と反対討論を行いました。が少数否決、来年度から有料となることが決定しました。なお、他の議員の質疑の中で、市民の市内日帰り温泉利用料の割引が検討されるとの答弁がありました。

「命が大切にされる環境を」Ⅱ

前号で報告した①競輪場外車券売り場(サテライト坂戸)建設、②毛呂山町の企業排水の件について、市民みなさんの取り組みが大きな成果を上げました。

「サテライト坂戸」の建設は中止

片柳地区の競輪場外車券売り場(サテライト坂戸)建設の中止が決定したとの情報があり、石川市長と直接確認することができました。

所在地も連絡先も明らかにしないまま「株式会社 NSC」なる業者は、こそこそと「アリバイづくり」のような説明会を開き、参加者を制限し、その少数の出席者で賛否の多数決をとろうとしたとのこと。反対を受けて断念したそうですが、姑息なやり方に憤りを覚えました。

自治会長さんも、小学校の保護者も反対し、集まった多くの署名。社民党坂戸総支部としてもこの状況を石川清市長に伝え、建設の中止を求める要望書を提出していました。

埼玉県内には、この「サテライト」なる施設は未だ一つもありません。交通事情を含む環境の悪化など、市へ支払われる金額など、とても及ばないほど、市のイメージや価値がマイナスになりかねないところでした。東京でも、池袋での建設に対して豊島区は議会をあげて反対したそうです。坂戸市民の良識の勝利だと思いました。

毛呂山の企業排水は公共下水道に接続

毛呂山町東部地区に誘致されたリネンを扱う企業(株)トーカイは、工場排水を農業用水路に放流する計画を撤回し、公共下水道に接続することを、8月26日の説明会で明らかにしました。これに先立って「農業用水、葛川の汚染は許されない」と、大久保耕地対策会(代表峯岸英男さん)が取り組んだ署名を添えた請願は、8月21日の毛呂山町議会総務・文教常任委員会で「採択」されました。

坂戸市議会では武井誠がこの件で一般質問。市民、町民みなさんとの協力による大きな成果をともに喜びたいと思います。



地域防災訓練を子どもたちと

上写真は、入西地区・堀込で8月20日に行われた防災訓練の1シーンです。池の水を抜いて、清掃と防災訓練と、さらにこのあと、子どもたちと魚など水生生物の「かいぼり」。見学させていただき、素晴らしい取り組みだと思いました。

下写真は、8月26日、同じく入西地区・北大塚で、武井誠と子どもたちが賞味期限の迫った非常食アルファ米をお湯で戻し、わかめご飯を作っているところです。夏休みのラジオ体操最終日の、お楽しみ会の一コマです。

9月3日、入西小学校で行われた総合防災訓練にも多くの子どもたちが参加していて、とても良いことだと感じました。楽しい行事の中で子どもたちの友だち作りを応援しながら、防災意識を、さらに進んで地域防災の担い手に、ということ、これまで一般質問でも取り上げてきました。子どもの力を借りて地域社会のつながりを！